

大分商工会議所青年部

令和5年度

提言書



令和6年3月  
大分商工会議所青年部  
会長 吉田 則仁

## 目 次

ご挨拶	
大分商工会議所青年部 会長 吉田 則仁	.....3
第1.提言の趣旨	
「スポーツのまちおおいた」を目指して	.....4
第2.提言の背景・地域課題	.....5
1.大分市民のスポーツへの関心度	
2.大分市のスポーツ団体・施設の現状	
3.スポーツと職業の関係性	
4.スポーツイベントがもたらす経済波及効果(他市の取り組み状況)	
第3.具体的な提言	.....13
1.SHOKU(「職(業)」と「食」)×SPORTSの融合イベントの実施	
(1)親子で参加!「職(業)」とスポーツの体験会	
(2)地元特産品「食」を使ったフードフェスの開催	
(3)SNSや市報を活用した情報発信の強化	
(4)予算とマンパワーの確保	
2.スポーツ環境の整備	
(1)スポーツ施設の充実と施設・資源の活用	
(2)スポーツ指導者の確保	
第4.結語	.....18
おわりに 地域政策提言委員会 委員長 内海 靖大	.....19
ヒアリング調査先一覧	.....20

## 令和5年度地域政策提言委員会 名簿

地域政策提言委員会担当	副会長	澤内	井海	真靖	治大
地域政策提言委員会	委員長	内秋	海吉	靖優	子一
	副委員長	佐藤	藤吉	論	亮浩
	委員	秋岩	滿本	朝智	裕介
	委員	河野	池宗	洋隆	史一
	委員	國黑	田田	俊和	樹明
	委員	其田	田口	恭永	依子
	委員	竹尾	尾田	重健	臣生
	委員	玉濱	田本	高真	史里
	委員	真三	鍋浦		正

## ご挨拶

大分商工会議所青年部(大分YEG)は昭和57年に創立され、地域の経済的発展の支えとなるべく、府内戦紙をはじめ多くの事業をおこなって参りました。

多くの事業があるなか、それらの中で平成29年度より新しい取り組みとして政策提言を毎年おこない続けて参りました。これまで提言した中には実現出来たものもあれば実現に至らなかったものも多くあります。本年度は、過去の提言を見直し、再確認するとともに、新たな提言としてスポーツがもたらす経済波及効果、健康促進、そしてスポーツのまちをおいたを目指す内容を1年間かけて調査や視察を行いました。

いま、大分市のみならず全国で子ども達のスポーツ離れ、そして体力の低下などが問題視されております。その中でも大分市はプロチームのホームタウンやスポーツ施設が充実しており、プロの試合などが数多く開催されております。しかし、スポーツに興味がなく、プロの試合など行われても観戦に行かず、期待される経済波及効果が生まれていないのが現状です。

そこで、もっとスポーツに関心を持ってもらうためにはどうしたらいいのかを考え、職(業)と食とスポーツを組み合わせることで次世代の子ども達に関心を持ってもらうためのイベントの開催などを検討し調査して参りました。

また、我々大分YEGは青年経済人として、スポーツがもたらす経済波及効果や地域活性化にどう繋げて大分市を「スポーツのまち」にするか、必要なことや我々ができることを考え、提言させていただきます。そして、この提言が実を結ぶことを期待すると同時に、大分YEGとして何ができるかをしっかりと考え、実現に向けて取り組んでいく所存です。

結びに本提言書の作成にあたり、ご協力を賜りました関係者のすべての方々に心からの感謝を申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

大分商工会議所青年部  
第42代会長 吉田 則仁

## 第1 提言の趣旨

我々大分商工会議所青年部(以降は「大分YEG」と表記)は、地域社会の健全な発展を図る青年経済人として日々活動しております。大分市には地域を活性化させうる資源が数多く存在します。そのような中、我々大分YEGは大分のスポーツに目を向け、大分のスポーツがさらに盛り上がることで地域経済の更なる活性化に繋がると強く考えております。「スポーツのまちおおいた」を築き上げることによって大分市の地域経済を活性化させるべく、以下の施策を提言します。

- ① SHOKU(「職(業)」と「食」)×SPORTSの融合イベントの実施
- ② スポーツ環境の整備

### ■「スポーツのまちおおいた」を目指して

「スポーツのまち」とは、特定の地域がスポーツを中心とした活動やイベントを通じて、地域全体の健康促進、経済活性化、観光振興、地域社会の結束強化などを図る取り組みを指します。これは、単なるスポーツ施設の整備だけでなく、地域全体でスポーツを活かした様々な取り組みを進め、地域発展のためにスポーツを統合的に活用するコンセプトです。「スポーツのまち」は、以下のような特徴を持ちます。

#### 1. 充実したスポーツ施設

スポーツのまちでは、多様なスポーツ施設が整備されていることが一般的です。これには、競技場、体育館、プール、トレーニングセンター及びランニングやサイクリングのためのコースなどが含まれます。

#### 2. スポーツイベントの開催

スポーツのまちとして、様々なスポーツイベントや大会の開催地として広く認知される都市の実現を図ります。これにより地域に観光客が訪れ、地域経済が活性化することが期待されます。

#### 3. 地域住民の参加

スポーツのまちは、地域住民が、スポーツクラブや地域のスポーツ団体での活動、イベントやレクリエーションプログラム等に積極的に参画する社会の実現を図ります。これにより地域全体の健康的なライフスタイルを促進することが期待されます。

#### 4. スポーツ文化の育成

スポーツのまちは、スポーツ文化を育成し、地域社会においてスポーツが重要な存在となるよう努めます。これには学校や地元のスポーツクラブとの連携が含まれることがあります。

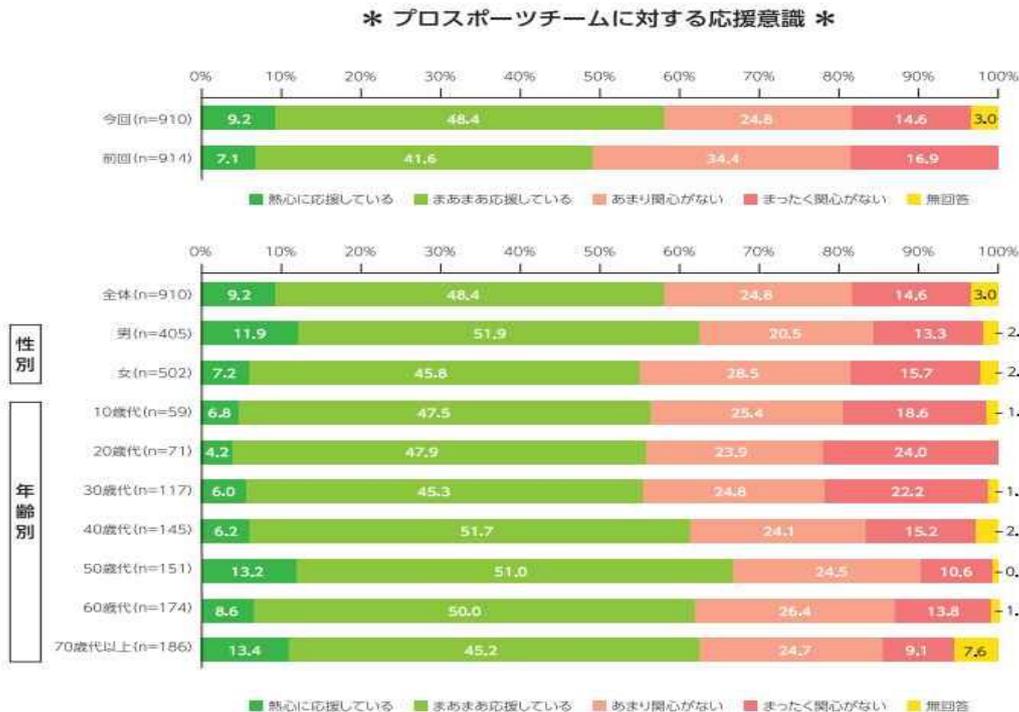
以上のとおり、「スポーツのまち」の具体的な特徴や活動は地域によって異なりますが、これらの要素を組み合わせ、大分市全体がスポーツで活気溢れる町となることを目指していきたいと考えております。

## 第2 提言の背景・地域課題

### 1. 大分市民のスポーツへの関心度

大分市には複数のプロスポーツチームが拠点を設けて活動しており、プロスポーツの魅力に触れる機会が多い自治体です。大分市が平成31年に実施した調査によると、プロスポーツチームに対する応援意識では、応援しているとの回答は57.6%となっており、関心がないとの回答は39.4%<sup>1</sup>となっています。その一方で、1年間にプロスポーツチームを会場で観戦した割合はわずか16%<sup>2</sup>となっています。これらのことから、地元のプロスポーツチームだから応援はしているが、会場に足を運んでまで見るに至っていないことが読み取れます。

また、スポーツイベントへの参加状況を見てみると、参加・観戦した市民は10.8%にとどまり、20歳代となると2.8%<sup>3</sup>と少なくなっています。このようなことから、スポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様なニーズに応えるとともに、年齢や性別、障害の有無等を問わず、市民のだれもが生涯にわたってスポーツに参画することが出来るよう環境を整備していくことが必要といえます。スポーツは大分市において非常に重要な要素であり、地域コミュニティに多くの機会や展望をもたらしていますが、本格的にスポーツを楽しむための場所や機会、指導者が不足しており、多くの市民が求めているニーズが満たされていないのが現状です。

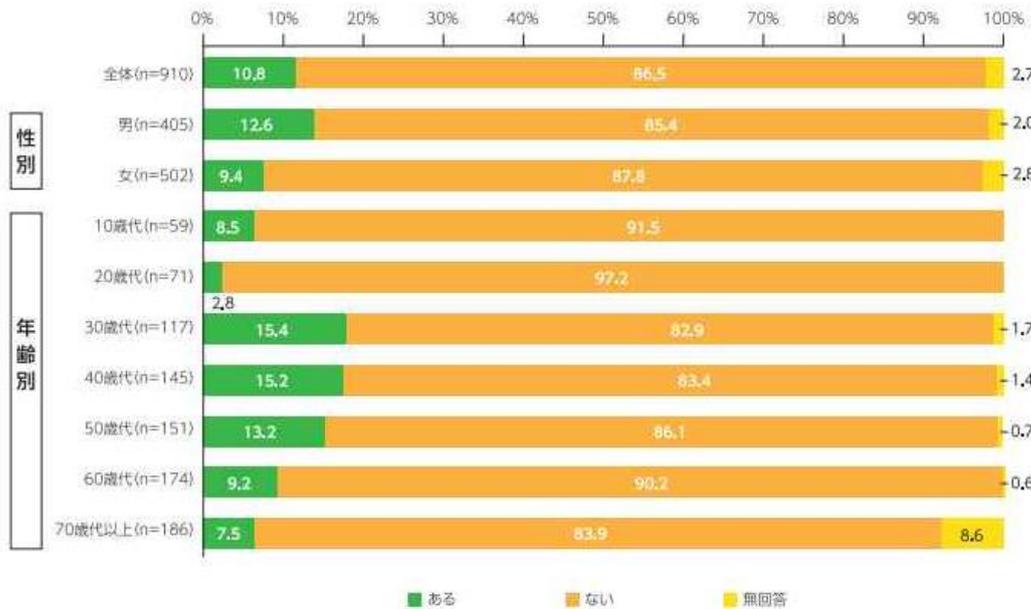


1 大分市スポーツ推進計画 P32 \*プロスポーツチームに対する応援意識  
 2 大分市スポーツ推進計画 P31 \*プロスポーツチームの会場での観戦状況  
 3 大分市スポーツ推進計画 P34 \*スポーツイベントの参加状況

\*プロスポーツチームの会場での観戦状況\*



\*スポーツイベントの参加状況\*



この結果を受けて、大分市のプロスポーツチームへの応援意識、関心度を上げることでスポーツへの意識も高まり、イベントへの参加者も増えると考えます。大分市(人口約47万人)と比較的人口規模に近い宇都宮市(人口約51万人)のプロスポーツチームを調査しました。宇都宮市にはホームタウンとして活動しているプロスポーツチームが3チームあります。栃木 SC(サッカー)、宇都宮ブレックス(バスケットボール)、宇都宮ブリッツェン(サイクルロードレース)です。

宇都宮ブレックスのホームゲームの入場者数は2年間で5倍になったとのこと。試合を楽しんでもらうことはもちろんのこと、それ以外の「付加価値」が提供されています。会場を盛り上げるためのプロジェクションマッピングを使った演出は来場者に大変好評とのことであり、体育館内を試合毎に装飾することによって普段は誰でも使える体育館に非日常感を取り入れることにも注力されています。また、ファンとの一体感を演出する企画を設け、市民と宇都宮ブレックスと一緒に戦うことが出来るようにされています。

一方、宇都宮ブリッツェンは地域貢献活動を大切にし、自治体協力のもと自転車イベントや学校での自転車安全利用教室を開くなど自転車文化の発信に努め、その結果、約150社程度のスポンサーに支えられて経営が出来ているとのこと。

これらのことから、市民が観戦する、応援するきっかけづくりが重要であり、チームの紹介や地域貢献によりファンを獲得し、スポーツへの意識を高める取り組みが必要であると考えます。

<装飾前>



<装飾後>

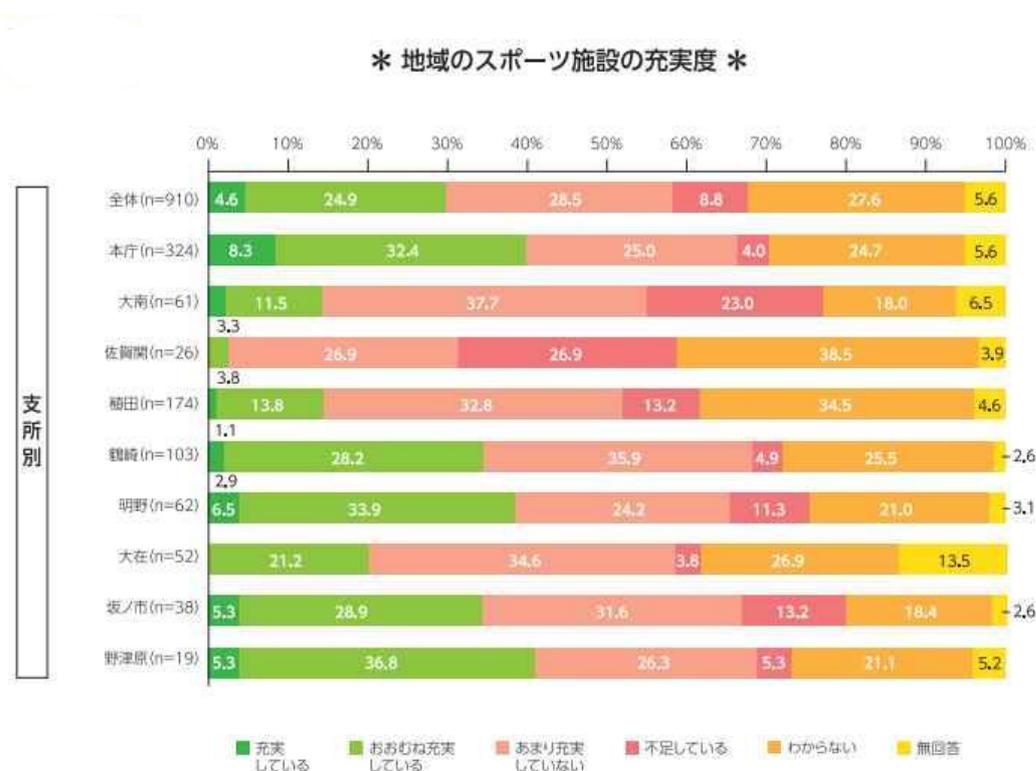


<プロジェクションマッピングの様子>



## 2. 大分市のスポーツ団体・施設の現状

大分市では、各校区・地区住民で組織された校区・地区体育協会や、総合型地域スポーツクラブをはじめとする様々なスポーツ関係団体により、それぞれの地域に応じた活動が行われています。また、大分市スポーツ協会に加盟する各競技団体を中心として、スポーツの普及や定着を図る取り組みが進められています。ただ、令和2年3月に策定された大分市スポーツ推進計画にもあるように、地域によってはスポーツをしたくても近くに相応の施設が整っておらず、施設が「充実していない」と感じる市民が多い<sup>4</sup>のが現状です。利用者のニーズの変化や老朽化の危険性、高齢者や障害のある人々も含めてあらゆる市民が施設を利用出来るようにするには、利便性の面、老朽化の改善、利用者の安全性の確保やバリアフリー化など、施設環境の整備が必要であると考えます。



<sup>4</sup> 大分市スポーツ推進計画 P22\* 地域のスポーツ施設の充実度

### 3. スポーツと職業の関係性

県内の大学生の就職内定率は94%と高いものの、県内での就職を希望する大学生の割合は高校生の約75%と比べてとても低いことや、少子高齢化の更なる進行に伴う労働人口の減少は、企業における人手不足を悪化させ、企業の成長を妨げています。大分市の雇用情勢について見ると、有効求人倍率は近年高くなってきています。しかし、全国的に若年者の離職率などが課題とされています。大分県は全国の離職率調査の中では15位(4.1%)<sup>5</sup>と決して低いとはいえ、雇用のミスマッチが働く若年者と企業との間で生じているのが現状です。

新規学卒者の就職後3年以内離職率<sup>6</sup>

【高校】37% 【短大】42.6% 【大学】32.3%

現状、大分市では小学生を対象に職業体験イベントを支援したり、中学生には職業講話を行ったりして働くことの意義や社会における企業の役割などの理解を深め、若年層の職業観の形成を促して雇用のミスマッチの解消につなげる取り組みが行われていることから、新たな取り組みとして【職(業)とスポーツ】の融合を行うことで、子ども達の職業に対する意識を更に深めることができ、将来の大分の産業の発展にも繋がるものと考えます。

また、全国で子育てや子どもの教育に関わる企業数社が小学生に行った「将来働きたい職業」のアンケートでは、男女総数で1位スポーツ選手、2位教員、3位まんが家との結果が出ています。スポーツ選手を職業にしたいと考える子どもは多く、近年人気な職業とされています。そこで、子どもの関心が高いスポーツに職業体験を同時に行い、働く楽しさ大変さ、働く喜びを学んでもらいたいと考えました。

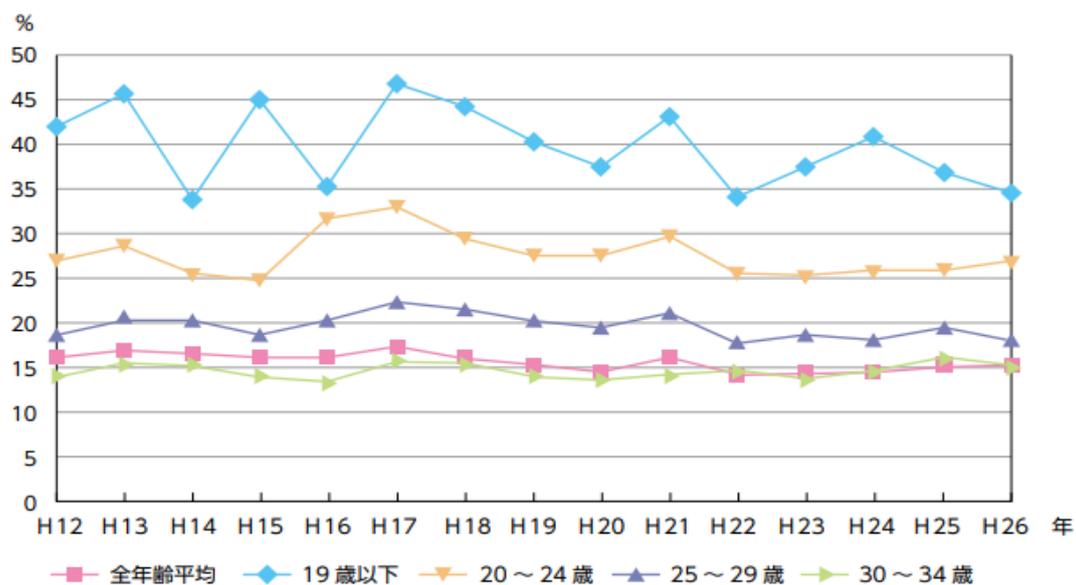
---

<sup>5</sup> 厚生労働省ホームページより

<sup>6</sup> 2017年総務省統計ダッシュボード調査データより

表1<sup>7</sup>

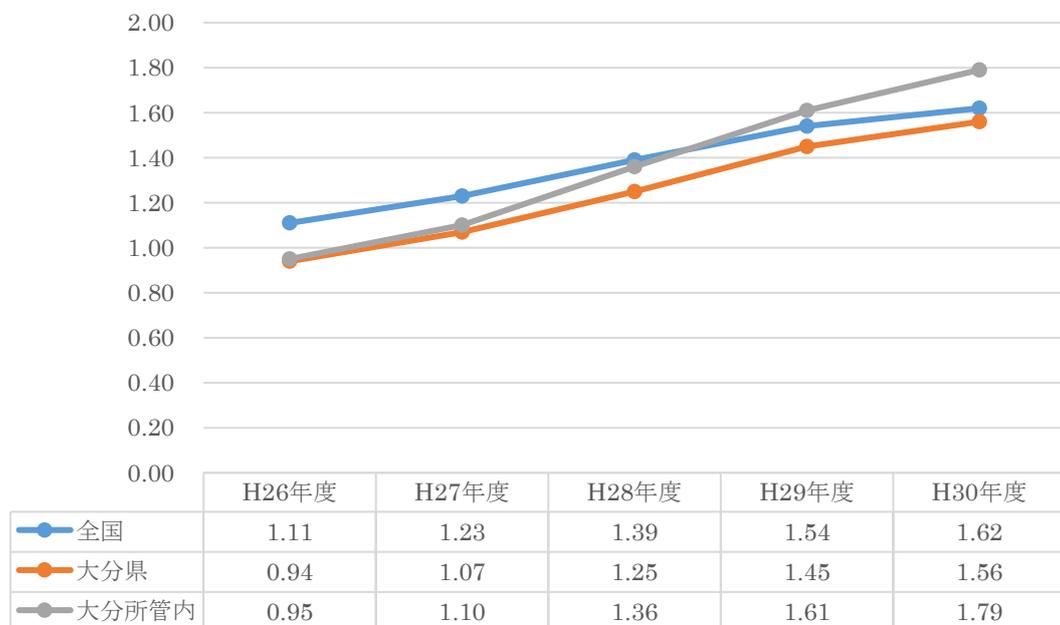
全国の若年層（15～34歳）の離職率の推移



※全年齢平均とは、19歳以下～65歳以上を含む 資料：総務省「雇用動向調査」

表2<sup>8</sup>

有効求人倍率の推移



<sup>7</sup> 大分市第二次商工業推進計画より

<sup>8</sup> おおいた創造ビジョン2024第2次基本計画より抜粋

#### 4. スポーツイベントがもたらす経済波及効果(他市の取り組み状況)

スポーツイベントがもたらす経済波及効果は多岐にわたります。スポーツには、「する」「みる」「ささえる」という3つの参画のかたちがあり、多くの人々が関わっています。集客力のある(魅力ある)スポーツイベントを開催することで、参加者や観戦者による直接的な経済効果、こうした人々が飲食や宿泊、サービスを利用することで生まれる一次波及効果、さらにはこうした産業の生産活動や、産業に関わる人々の雇用や賃金等に関する二次波及効果と、大きな経済波及効果が生まれることが期待できます。この効果をより高めるために、スポーツだけでなく食や地域の特産物などの観光面の魅力を結び付けたイベントとして実施することが有効と考えます。

そこで、我々大分YEGは2つの自治体の取り組みを調査しました。

##### (1) 熊本県熊本市

食とスポーツのイベントの参考として、熊本県熊本市で行われた「熊本福幸 SPORTS フェス※参考資料①」というイベントの主催者である熊本福幸 SPORTS フェス実行委員会に話を伺いました。

「令和5年4月22日～23日に開催されたこのイベントには、2日間で約1万5千人に会場いただいた。当初は平成28年の熊本地震からの復興をコンセプトとし、未来の熊本を担う子ども達に夢を与えたい、スポーツで地域を活性化させたいとの思いから令和4年に初めて開催した。資金繰りの面は一番苦労した。しかし、開催を重ねるごとに、子ども達の未来のため、地域の活性化のためならと実行委員会の思いに共感してくれる方が増え、その結果、運営資金のほぼすべてを協賛金で賄うことが出来るようになった。それだけでなく、今回は700万円の運営費用に対し、60社から約1200万円の協賛金が集まり、収益の一部は熊本県に復興支援金として寄付をすることができた。協賛に対する返礼品などはなく、開催の思いに賛同してくれる同志でイベントは成り立った。」とのことでした。

イベントを開催したことによって共感者が増えたことはもちろん、地元スポーツクラブから加入者が増えたことや部活動の生徒が増えたこと、また、多くの感謝の言葉を頂いたことがなによりも嬉しいと仰っていました。

##### (2) 栃木県宇都宮市

大分市(人口約47万人)と比較的人口規模に近い宇都宮市(人口約51万人)を調査したところ、宇都宮市では2023年4月に3人制バスケットボール「3×3」のクラブチーム世界一を決める大会が開催されていました。会場では「食」や「音楽」のイベントが同時開催され、地域の独自性や地元の祭りとの連携で集客に結びつけ、その経済波及効果は5億8640万円で、延べ7万人の来場があったようです。

上記2つの自治体の取り組みは経済波及効果としても大きな成果を上げているといえます。どちらも継続性があり、特に「宇都宮市」については、まちづくりや都市のブランド化の一環としても活用

されています。どちらも自治体単独ではなく幅広い関係者の協力により実現している取り組みと推察されます。

※参考資料①熊本福幸スポーツフェスの様子



## 第3 具体的な提言

### 1. SHOKU(「職(業)」と「食」)×SPORTSの融合イベントの実施

大分市は別府市や由布市と比較すると観光都市としてのイメージが希薄とも感じられます。しかし、食資源は豊富であり、その魅力を十分に活かしきれていないと思われる一方で、多種多様な産業が集積しており、これを本市の魅力として活用するべきと考えます。そこで、「職(業)」と「食」にスポーツを掛け合わせたイベントを開催して、市内外からの集客を図り、波及効果の高い経済活動を生み出してはどうかと考えます。

そうしたことから、我々大分YEGは、親子で参加出来るスポーツと「職」の体験会や、プロスポーツチームを含めた様々な競技団体やスポーツ関連団体に参画してもらうスポーツ体験会に「食」を取り入れた多種多様なコンテンツを提供するイベントの開催を提言します。

イベントを1か所で開催するのではなく、レゾナックドーム大分・サイクルショップコダマ大洲アリーナ・お部屋ラボ 祝祭の広場を使ったスポーツ回遊イベントにします。3か所によるスタンプラリーを行ったり無料シャトルバスを走らせたりすることにより、回遊性の向上だけでなく会場へのアクセス改善(特に来街者)が可能となります。また、複数会場のイベントとして実施する場合には多くの協力が不可欠です。これらのイベントを通じて子どもたちにスポーツの選択肢はもちろんのこと、職業の選択肢も与え、将来大分に定住したいと思える場にする事が出来ます。実施内容(案)は表3の通りです。

#### (1)親子で参加!「職(業)」とスポーツの体験会

子どもに様々なスポーツを経験させることは、動作や感覚を養い、心と体を大きく成長させ、自信をつけさせることができ、将来の可能性や夢を引き出すきっかけになります。また、子どものスポーツに熱心に取り組んでいる保護者も多く、「将来プロの選手になって欲しい」と、夢の実現のために強豪チームや良き指導者を選ぶことも多いです。

大分市でも子どもが対象のスポーツに関する教室・講座・イベントが行われていますが、情報不足、敷居が高い、人数が集まらないなどの理由から体験を行うまで至らない、体験後スポーツを始めるきっかけに繋がらなかったというケースが多いようです。実際に、子どもが少なく試合に登録ができない、指導者層の薄さなどによりチーム解散の危機にあるなどといった悩みを抱えているクラブチームや少年団を耳にします。

そこで、我々大分YEGでは、大分の未来を担う子どもたちが気軽に体験・参加出来る環境をイベントの一つとして行いたいと考えております。

- ・親子で参加しよう! スポーツ体験(プロスポーツチームを含めた協議団体やスポーツ関連団体)
- ・将来の【夢】を見つけよう! 職業体験(大分YEG)

親子で参加のスポーツイベントでは、キャッチボールの仕方や跳び箱、鉄棒などを体験してもら

い、野球やサッカーなどの本格的なスポーツ体験だけではなく、親子のコミュニケーションを深めることでスポーツの楽しさを体感してもらい、スポーツ選択のきっかけにしてもらえたらと考えています。

職業体験では、スポーツが苦手な子どもでもイベントに参加出来るように、塗装や司会、映像制作などの職業を体験してもらい、実際にイベントで買い物が出来る券をお給料として渡すことで、働くことの楽しさ、大変さを体験してもらいます。雨天時も想定されるので、屋内での実施が可能な内容とします。多業種が集まる我々大分YEGだからこそ、職業の幅を広く伝えていくことが出来ます。地元の企業や地域のリーダーと直接対話することで、地域社会とのつながりが生まれ、地域社会への帰属意識や責任感が育まれ、地域に定住する意欲が高まります。体験を通じて子どもたちの将来の夢へのヒントになればと考えております。

## (2) 地元特産品「食」を使ったフードフェスの開催

大分市には豊後牛、関あじ、関さば、カボス、しいたけ、クロメなど魅力ある特産品が多くあります。地元特産品が消費されることで、地元経済が活気づき、生産者や事業者が収益を上げることが出来ます。また、市外からの観光客も引き寄せ、地元の食材や料理が評価され、観光客が地域を訪れる動機となります。出店やキッチンカー、特産品販売など、「食」の提供が出来るレゾナックドーム大分・サイクルショップコダマ大洲アリーナ・お部屋ラボ 祝祭の広場の3か所でフードフェスを開催することによって各所を回遊する動機となり、経済波及効果が生まれます。

## (3) SNSや市報を活用した情報発信の強化

上記で述べたような活動の啓発、広報のために、新聞、ラジオ、特にSNSを使って広報活動を強化することを提言します。市報は大分市民にとって市の取り組みの情報を得る上で最も身近で簡易的な手段ですが、近年は特に若年層を中心にSNSから情報を得ることの方が多なのが現状です。SNSを頻繁に使用している若年層に拡散してもらうことで、市外県外への発信にもつながります。以下、他市の取り組みを調査しました。

### ① 高知県

2019年にTwitter(現「X」)を活用し「リョーマの休日 #一生忘れられない高知旅行 ぶち体験キャンペーン」を実施。フォロー&リツイートをした人の中から抽選100名に「高知県産品が購入できるオンラインクーポン」をプレゼントするというもので、キャンペーンによってフォロワー数は1万8千人となり、およそ10倍も増加。33%のSNSフォロワーが実際にアカウントを見て訪れたとのこと<sup>9</sup>。

<sup>9</sup> SNS運用のヒントが見つかるメディア「WE LOVE SOCIAL」より

## ②甲府市

山梨県の観光客はシニアや男性が中心でしたが、若年層の女性も取り込みたいということで観光課専用のInstagramアカウントも開設。職員の方がおすすめのお店を紹介するなど投稿を続けてきました。

さらに、インフルエンサーが職員とともに市内をまわり、インフルエンサー自身に楽しんで投稿してもらうことで、効果的なPR活動に。質の高い投稿はフォロワー数の7倍ヘリーチが拡大し、ブックマーク数も3,500件以上という大きな成果が得られたとのこと<sup>10</sup>。

主催者だけではなく参加する企業や店舗がInstagramに投稿することで集客効果を得られる場合もあります。Instagramは飲食店が先行しているため、イベントに参加する店舗などのInstagramで告知活動する方法がコストをかけずに実施出来るPR手法の一つと考えます。プロスポーツチームや様々な競技団体、スポーツ団体にも協力してもらうことも重要です。

また、SNSのフォロワー数を増やすために、プロスポーツチームを定期的に紹介したり、イベント時に受付や案内場でSNSをフォローしてもらったり登録してもらおうようプレゼントキャンペーンを行うことも効果的です。SNSのフォロワーが増えることは、情報発信の効率化、広報活動の強化などのメリットがあり、SNSを活用して地域の魅力やイベントを発信することで観光客や市外からの訪問者を増やすことができ、大分市の活性化に繋がると考えます。

## (4) 予算とマンパワーの確保

複数会場のイベントの開催の際には、予算捻出のためにスポンサー集めが重要です。「企業名やサービス認知度アップ」、「新規顧客の獲得」、「社会貢献」などのスポンサーになることのメリットを伝え、多くの協賛企業の確保を目指します。会場ごとの主催者設定などマンパワーも必要なため、相応の協力者が必要となります。

---

<sup>10</sup> 自治体のSNSを活用した町おこしの成功事例より

表 3

実施内容	詳 細	
各スポーツチームのホームページ、SNSを活用した魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場の様子を大分市公式 YouTube で配信</li> </ul>	
3か所の会場を活用した関連イベントの展開	<p>＜お部屋ラボ 祝祭の広場＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋台・キッチンカー</li> <li>・飲食スペース</li> <li>・アーバンスポーツ体験</li> </ul>	
	<p>プロスポーツ選手との交流や飲食ブースの設置</p> <p>＜レゾナックドーム大分＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋台・キッチンカー</li> <li>・飲食スペース</li> <li>・サッカー体験</li> <li>・職業体験</li> </ul>	
	<p>プロスポーツ選手との交流や飲食ブースの設置</p> <p>＜サイクルショップコダマ大洲アリーナ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋台・キッチンカー</li> <li>・飲食スペース</li> <li>・野球・バレー・自転車体験</li> </ul>	
大会を通じた大分市の魅力発信	大会会場におけるブース出展や飲食スペース、特産品など、大分市の魅力を発信	
各会場の回遊性向上に向けたバスの無料乗車券の発行・配布	交通事業者と連携した JR 大分駅～サイクルショップコダマ大洲アリーナ～レゾナックドーム大分への乗車券の発行・配布	

## 2. スポーツ環境の整備

### (1) スポーツ施設の充実と施設・資源の活用

スポーツを行うための施設の充実と資源の活用は、地域のスポーツ振興とスポーツを通じた地域コミュニティの活性化を促進するために非常に重要です。地域住民のニーズに応じ、既存スポーツ施設の改善や有効活用、時代に適したスポーツ施設の更新・整備等を計画的に進めていくことで、市民のスポーツ活動の充実・活性化に繋がるものと考えます。

施設の調査として、佐賀県にあるSAGAサンライズパークに視察を行って参りました。令和5年5月に完成したばかりの新しい施設ということもあり、バリアフリー対応はもちろんのこと、施設内にコンビニ、カフェ、セレクトショップ、レストラン、屋外飲食スペースなど日頃から市民が気軽に訪れることが出来る環境が整備されていました。大分市にもこのようなスポーツ以外の目的で訪れるきっかけとなる場所があると、日常的に施設を訪れる人々が増え、気軽に立ち寄ることが出来るでしょう。また、これらの施設はスポーツに触れるきっかけとなるだけでなく、イベントが開催される際には多くの人で賑わい、地域の活性化にも繋がるものと考えます。

### (2) スポーツ指導者の確保

地域スポーツの振興を図るためには、十分な数のスポーツ指導者の確保も非常に重要です。魅力的なスポーツイベントの開催や、住民がスポーツに触れる環境の充実を図っていくためには、それぞれのニーズに応じたスポーツの指導や助言が出来る人材の充実が求められます。また、現在公立中学校の部活動の地域移行も推進されています。スポーツ指導者が増えることで学校や教育機関との連携が強化され、スポーツ教育の充実が期待されます。これにより、児童・生徒や子どもたちがスポーツに親しむ機会が増え、健康的な生活態度が育まれます。適切な報酬や福祉、労働条件等、指導者が働きやすい環境を整備することも重要と考えます。

### ※SAGAサンライズパーク視察時の写真



## 第4. 結語

市民はスポーツに興味がない訳でもなく、スポーツをしたくない訳でもない。スポーツをする場所、日の目を浴びる場所を探しているのではないのでしょうか。もし宇都宮市や熊本市と同等規模のイベントを大分市で開催する場合、宇都宮市の人口が約51万人であり、大分市の人口も約47万人とほぼ同数なので、1日あたり約20,000人の来場が見込まれます。また熊本市の人口は約74万人なので、同規模で開催する場合は人口比率に基づいて1日あたり約5,000人の来場者が見込まれます。

観光庁の調査結果によると大分県の日本人1人当たりの日帰り消費額は3,738円<sup>11</sup>となっており、10,000人の来場だと3,738万円の経済波及効果が生じます。また、市外からの来訪者も多く見込めるため、宿泊費、交通費、飲食費、お土産などの買い物を考慮に入れると、さらに多くの経済波及効果が期待できます。

スポーツを通じた地域経済の活性化を目指すためには、上記のような定期的なスポーツイベントの開催とスポーツ環境の整備は不可欠であると考えます。大分の今あるスポーツ資源を活かして地域を活性化出来るように我々大分YEGは青年経済人としての協力はもちろんですが、町の力になりたいと考えています。上記で提言させて頂いた内容は、大分市全体として取り組んで行く必要があります。大分市と我々大分YEGで協力して「スポーツのまちおおいた」を作って行きたいと考えております。

提言が実現した際には、我々大分YEGは一丸となって以下のような活動を行います。

まず、運営スタッフとしての協力を積極的に行い、イベント成功に向けて大分市と協力し全力で取り組みます。協賛集めについても、地域企業や団体との協力関係を築きながらイベントの資金面を支えます。また、広報活動にも重点的に取り組み、各種メディアやSNSを活用してイベントの情報を広く発信します。大分YEGは様々な業種の会員が所属しておりますので、その多様なメンバーの力を活かし、職業体験の提供やSNSを活用した集客支援など様々な面での活動を行います。地域活性化のために必要な人的資源や協賛集めのノウハウを提供し、地域のスポーツイベントがより大きな成功を収められるよう活動を行います。

---

<sup>11</sup> 観光庁 旅行・観光がもたらす経済波及効果 2023 より

## おわりに

我々大分YEGは平成29年度より毎年政策提言を行って参りました。本年度は政策提言のテーマとして「スポーツを通じた地域経済の活性化」としました。FIFAワールドカップカタール2022や2023ワールド・ベースボール・クラシックの感動と熱狂は、あらためてスポーツの持つ力を感じさせてくれました。新型コロナウイルスの感染拡大で、スポーツが制限されたり、日々の生活から失われたりした状況が長く続いてきましたが、スポーツが我々の生活や社会に活力を与えるなど、重要な価値を持つことが世界中に示された瞬間であったと思われまます。

大分市には他市と比較してみても多くのプロスポーツ団体が存在します。そのようなプロスポーツ団体が地域に与える影響は無限の可能性を秘めています。そのような大分市のスポーツを盛り上げたい、スポーツで地域を活性化したいという想いからこのテーマと致しました。大分のスポーツを多くの人に知ってもらうことで地域を活性化したいと考えております。また、未来の大分を担う子ども達にスポーツ体験や職業体験を通じて学ぶことの大切さや、体験することによって多くのことを得てもらい、将来の職業の選択肢を増やしてもらいたいと思っております。

スポーツといえば、年齢や性別などに関係なく誰でも参加でき、健康にもよく、仲間も増えて交流も深まるといったいいことしかありません。現在、地域を盛り上げようとスポーツ大会の誘致や、スポーツをきっかけに地域ブランドを高める取り組みが各地で行われています。我々大分YEGはスポーツの力で地域を元気に、生き生きと笑顔になってもらうことを目的に、地域の資源や特性を生かして地域が盛り上がるような活動に取り組んで参りたいと思います。その活動の一貫としてSHOKU（職（業）と食）×SPORTSの融合イベントの実施とスポーツ環境の整備を提言致します。

最後になりますが、本提言を作成するにあたって当初よりご支援くださった皆様には心より御礼申し上げます。本提言が大分市の施策に反映され、取り組みとして促進されることを信じ、本提言書の結びとさせていただきます。ありがとうございました。

大分商工会議所青年部  
地域政策提言委員会 委員長 内海 靖大

なお、本提言にあたりヒアリング調査を行った各機関は以下の通りです。(敬称略)

大分市商工労働観光部 商工労政課

大分市企画部 スポーツ振興課

大分市教育委員会 体育保健課

熊本福幸 SPORTS フェス実行委員会

佐賀県 SAGA2024・SSP 推進局 SAGA サンライズパーク整備振興課

佐賀市地域振興部 スポーツ振興課

宇都宮市経済部 都市魅力創造課

公益財団法人 吉田記念 テニス研修センター